



INGING
MOTORSPORT®

NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2020 JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

NEXT RACE Round 4. オートポリス 11.15 sun

Chapter.4

「我慢のレース」

We are Fight!



INTERVIEW

■ チーム監督 立川 祐路

「良い流れが維持できない

厳しい戦い」

■ 38号車 ドライバー 石浦 宏明

「とても

苦しいレース」

■ 39号車 ドライバー 坪井 翔

「次戦に
つなげる **改善点**」

RACE ARCHIVE

荒れるレースの予感

ポイント

レースアーカイブ: Round.3

スポーツランド菅生

Get! なるか!?



RACE ARCHIVE

レースアーカイブ Round.3 スポーツランド菅生 決勝 10月18日(日) <予選・決勝> 天候:晴れ曇り | コース状況:ドライ

前戦のワンツーフィニッシュは、昨シーズン新しいマシンSF 19に非常に苦しんだチームの士気を高めてくれ、この菅生ラウンドを気分よく迎えることが出来た。今般の開催の舞台となる菅生は、木々の葉も色づき始めすっかり秋。設営日は空が透き通るほどの秋晴れとなったものの、走行の始まった土曜日は朝から冷たい雨に見舞われ、気温は初冬の寒さにまで下がった。



決勝レースは、53周(190.058km)。午後になると若干陽が陰り曇り空が広がった。決勝を控えいよいよウォームアップ走行が始まると、コースオフしてしまうクルマがあり、赤旗となった。コース整備に時間を要し、その後のスケジュールが10分ディレイとなった。14時54分、グリーンフラッグが振られると53週のレースがスタートした。早速1コーナーでバランスを崩したクルマが他車にヒットしコースアウトが発生。荒れるレースを予感するもわれわれの2台は影響を受けず無事。石浦10番手、坪井は14番手と1つポジションを落としてオープニングラップを終えた。

スタートから10周を過ぎるとタイヤ交換の義務を消化できるレギュレーション

今回は、スタートから10周を過ぎるとタイヤ交換の義務を消化できるレギュレーション。坪井は、12周でルーティンのピット作業を消化する為ピットに向かい14番手でコース復帰した。ピット作業後のアウトラップでコースオフしたクルマがあり、そのクルマの回収の為、20周を消化したところでセーフティカーが導入された。石浦は、このセーフティカーラン中に、ピットに向かいピット作業を敢行。その際に作業に手間取り25秒ほどタイムロス。しかし、SC中にピットに入ったクルマの中では最後尾になるはずだったが、SCの入った位置の関係でポジションのロスはなく、9番手のままでコース復帰となった。



28周目でレースが再開。しばらく膠着状態が続く。

28周目でレースが再開。しばらく膠着状態が続く。石浦は、ガンソリも減りタイヤも温まりクルマの状態が良くなって来た42周、前車をとらえて8番手。このままチェッカーを受け、3ポイントを獲得した。一方坪井は、前車に近づくもダウンフォースが抜け、追い抜くに至らず...それを何度か繰り返す我慢のレース、大幅なポジションアップには結びつかず。SC中の16番手から地道にポジションを上げ13位でフィニッシュした。



不難のQ1敗退、失速の原因もわからぬまま前戦の力を信じて戦いに臨む

We are Fight!

INTERVIEW

石浦 宏明 38号車 ドライバー



とても苦しいレースだった

昨日の走行では、ウェットコンディションで走る事が出来たのは今シーズン初めて。このレースの為という訳ではなく、今シーズン、新しくなったウェットタイヤのデータ取りとしてチェックができ、フィーリングも良く上位のリザルトを得ることが出来ました。午後のドライに関しては、きちんと確認できないまま終わりで、今日のぶつつけの予選を迎えてしまいました。そのせいかタイヤの熱の発動に苦戦し、グリップを全く引き出せず予選で下位に沈むこととなりました。今週もワンデー開催の為、予選から決勝まで時間がなく、セッティングを大幅に変更することがなかなかできない為、そのまま頑張ろうと思いついに臨みまし

た。決勝は、いつも自信があるのですが、今回は走行しているとペースが上がらず周囲に抜かれてしまう状況。無線で指示を仰ぎ最善を尽くしましたが、とても苦しいレースとなってしまいました。こんな時に良くないことも重なるのか、タイヤ交換のミスもあり、25秒くらいかかってしまいました。その時点でセーフティカーが入ってからピットに入った組の中では、ぶつぎりで最下位の予定でしたが、セーフティカーの入った位置で得をした為、9位のままで済みました。しかしそうすると、速いクルマが後ろに来てしまうリスクがあると危惧しましたが、タイヤがあたたまって燃料が軽くなって行くと、他車をパスでき8位に上がりました。結果的に3ポイントを獲得できました。今回、調子が悪く本来ならノーポイントに終わっても良いレースだったことを考えると、次のレースではいろいろなチャレンジしたいという気持ちになりました。次回は恐れずにトライして3点と言わず沢山ポイントを獲得したいです!

坪井 翔 39号車 ドライバー



次戦につなげる改善点

昨日は、ウェットもドライも調子よく、今日の予選 Q1までそれが続き、Q2まで進んだというのに、そこで途端にグリップがなくなってしまいました。ウォームアップしている段階から全く感触が変わる不思議な現象でした。

決勝は、菅生は例年荒れるレースとなるのですが、速さがあれば自分にもチャンスが来ると思って臨んだところ、いざ走って見たらペースが非常に悪く歯が立ちませんでした。自分たちにとってはセーフティカーのタイミングがとても悪く、またタイヤ交換したあとのアウトラップが異様に遅く、ラップ遅れになってしまいました。そこが今回の敗因です。菅生に対して良くなっていてと思っていたのですが、レースペースもアベレージで1秒くらい遅く、改善しなくてはいけない部分が沢山出てきて、結構辛いレースとなってしまいました。悪い点がたくさん見つかったので、似ている特性のサーキットは今後は無いのですが、その部分に対して今後対策を練り、やり直したいと思います!

立川 祐路 チーム監督



良い流れが維持できない 厳しい戦い

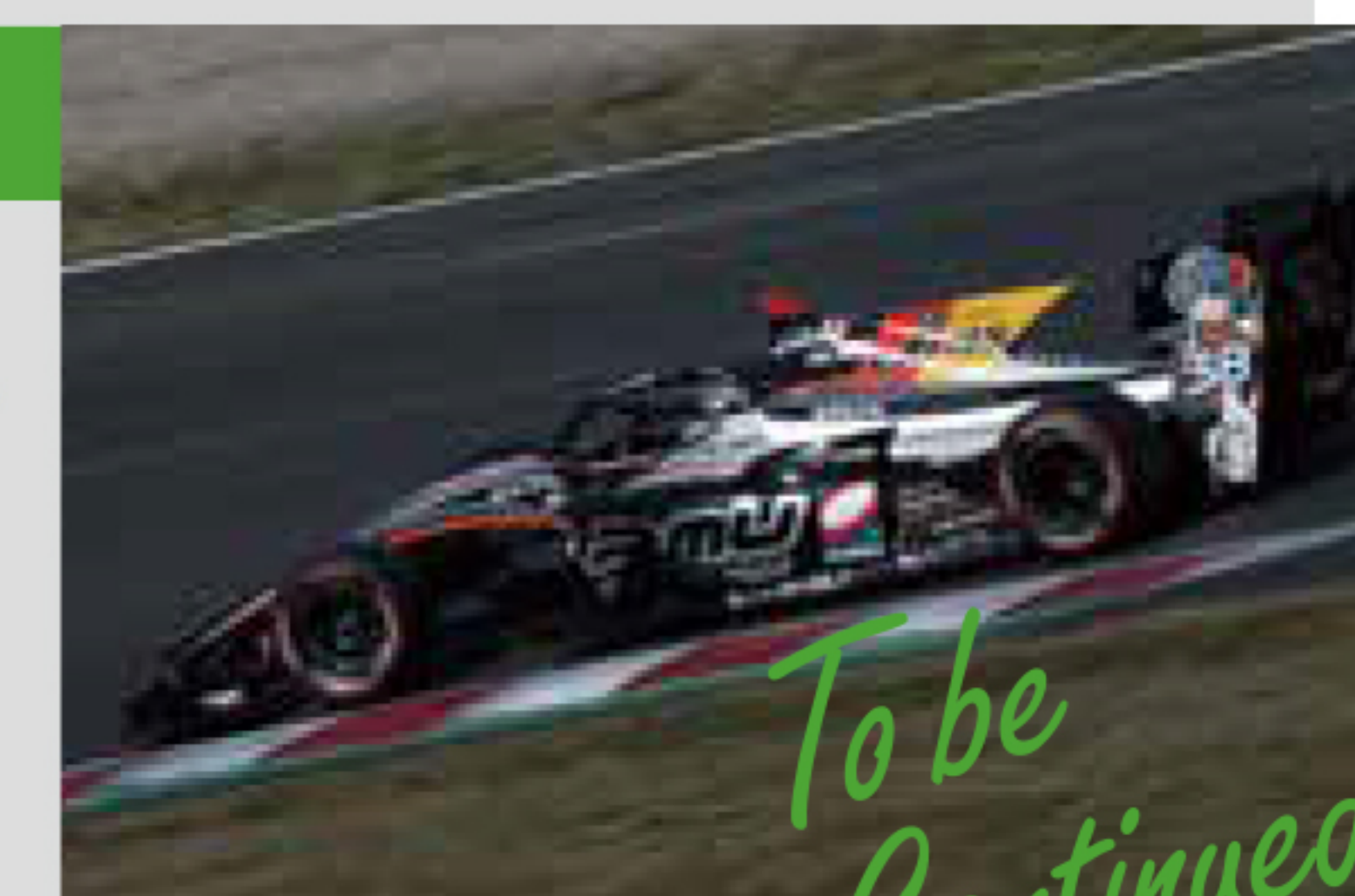
昨日のウェットからの走りだしは、とても良いと思っていたのですが、ドライになって今ひとつということで、2台とも今日の予選になってからはクルマのフィーリングが良くなかったです。坪井の方が少し予選は良かったのですが、Q2で原因不明の失速で、結果、予選は後方のグリッドになってしまいました。厳しいスタートになりましたが、決勝でどうにか挽回したいと考えていました。しかし、予選と決勝の間に

Results #38 石浦 宏明 予選 11位 決勝 8位 #39 坪井 翔 予選 13位 決勝 13位

変化に恐れることなく、状況を打破する勇気を持って戦いたい

総評

コースの特性の違うサーキットとは言え、前戦と全く違ったストーリーで展開した今回のレース。ノーポイントで終わるところをどうにか3ポイントを獲得することが出来た。ワンデー開催では、予選で失敗すると決勝までの時間も短く、そのままの流れになってしまう状況から、次戦は変化に恐れることなく、セッティングの変更を思い切るなどして、状況を打破する勇気を持って戦いたい。



To be Continued...